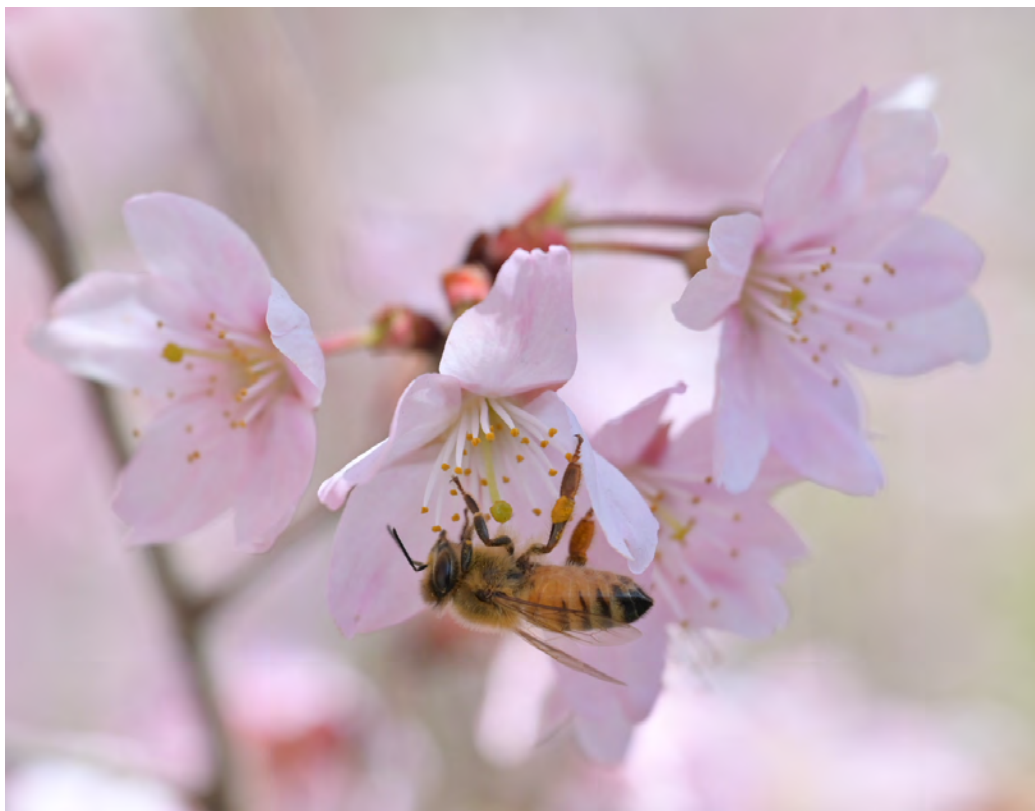




桜とミツバチ

筑波嶺

土浦協同病院新聞

第 91 号

発行所：土浦協同病院
おおつ野四丁目 1 番 1 号

発行人：広岡 一信

題 字：登内 眞

令和 8 年 5 月 1 日発行

新年度のご挨拶

令和 8 年度を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

昨年度は経営環境の悪化により、病院の収益低下が最も顕著になる年と予想され、実際、全国の急性期病院の 7 割が赤字に転落し、大学病院においても存立が危ぶまれるほどの財政難に陥っている事実が繰り返し報道されておりました。

当院では、収支改善策として、病床稼働率や回転率のアップを目指し、それまでの週ごとの予定入院数制限を外して患者さんを増やす方向に舵を切りました。ベッドの稼働率が上がる一方で、当院でなければ治療ができない緊急重症患者さんを何とか受け入れるために、危機を脱して状態の安定している患者さんには、集中治療室からハイケアユニットや一般病棟への移動をお願いせざるを得なくなりました。繁忙期にはご負担をおかけしたことが少なからずありましたが、現場スタッフは、地域の救急医療を守ろうと奮闘しておりますのでご理解いただければと存じます。

また、入院治療後は、リハビリを精力的に行って 1 日も早く退院できるよう多職種で個々の患者さんの状況に応じた支援を心掛けておりますが、自宅退院には少し早いという場合、安定した病状であれば転院をお考え頂くことになりました。社会福祉士が候補になる施設を探して相談にまいますのでご検討ください。茨城県としても令和 8 年度から予算をつけて積極的に転院を支援していくことを決定しております。土浦協同病院は、地域として患者さんを治し支えていくという仕組みづくりを率先して参りたいと考えております。

ところで令和 8 年度の診療報酬改定では、2040 年に向けてどのような役割を果たす病院として存続していくのか、本年 10 月ごろを目途に医療機能報告

を国に提出することが求められています。当院は、これからも急性期拠点病院として引き続き地域医療を支えていくことを目標としておりますし、社会からの要請でもあると考えております。そのためには優秀な人材を安定的に確保していかなければなりません。今後も東京科学大学、筑波大学から最新の専門知識を持った、優れた医師を派遣して頂けるよう、環境整備に努力してまいります。同様に大事なことは、看護師や理学療法士、薬剤師、検査技師、栄養士、事務などの医療を支えるコメディカルの人材確保です。少子化による人口減少により、18 歳の人口は 2035 年には 100 万人を切ると予想されている中、医療に携わる若い人を確保するにはどんな対策が必要なのかを今から真剣に考えなければなりません。これら技術系の人たちを集めていくには、教育体制を充実させ、ステップアップできるキャリアを示していくことが求められます。それに加え、以前から指摘されている課題として、他業種に劣らない給与水準を確保し、福利厚生を充実させる必要があります。今年度から国としても診療報酬改定で人件費分を上乗せし、政策的に底上げしていくという方針を出しています。また、若い世代が子育てしながら仕事を続けられる環境を整えることは、最優先事項で、附属保育所の受け入れを円滑化し、育児のための勤務時間短縮を取得しやすくなるよう、業務の効率化、省力化を進めていかなければなりません。当院でも AI を活用した DX やロボットを取り入れるなどこで働いていて良かったと思えるような職場づくりを目指してまいります。

皆様のご理解、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

(病院長 広岡 一信)



リレー連載 第48回 専門看護師・認定看護師リレー便り

治療の場から暮らしの場へ繋がる看護を目指して

訪問看護認定看護師
玉主 祥子

先日、新規利用者 Aさん(80歳代後半 男性)の初回訪問に伺いました。Aさんは、手術のため3週間ほど入院し、2日前に退院されました。「退院されて、お家ででの生活はいかがですか？」と尋ねると、「そりゃあ、もう最高。今朝は春菜の味噌汁を作って2杯飲んだよ。」と仰いました。私はAさんの言葉に、自分の暮らしの場に戻る事の安堵感を感じながら、90歳近いAさんが自分で調理をされ、自立した生活を送っていることに驚きました。Aさんの自宅は古い農家作りで、居間には石油ストーブ、廊下はひんやりと寒さを感じるような環境です。これはヒートショックが心配だ…と思考を巡らせる私をよそに、「うちは病院と違って寒いから、風呂はしばらく入らなくていいよ。」と笑顔のAさん。入院前は庭木の剪定を自ら行っていたこと、これから花を咲かせる樹齢300年を超える藤の木の話などをしてくれました。利用者の暮らしを維持するお手伝いをする立場として、Aさんの暮らしづくりと医療的ニーズをすり合わせ、療養環境を調整していくことがこれからの課題です。

訪問看護の利用者は高齢者が多く、その方の歩んでこられた人生の経験や知識から学ぶことが多くあります。私たちの出会いは利用者が疾患を患ったり、障害を持ち継続した医療管理が必要となった時で、決して良い状況とは言えないかもしれません。しかし、若い頃どんな職業についていたのか、入院前の暮らしづくりなどを尋ねると、ほとんどのの方が生き生きとした表情を見せてくれます。病院は『治療の場』ですが、患者さんはそれぞれの『暮らしの場』に戻っていきます。病院で減塩食を摂取し食事管理が出来ていても、独り暮らしの患者さんなら、買い物に行き調理をしなければ食事ができません。その過程を自分で実行できるのか、出来ない場合にそれを代行してくれる人があるのかなどの情報が重要となってきます。病院の看護師さんに患者さんの入院前の暮らしを少しだけ知ってもらい、退院支援の場で「〇〇さんはお家に帰ったら、～～したいそうですよ。」そんな情報共有ができるといいなと思います。

看護の将来ビジョンでは、看護の専門職としての価値を「疾病をみる『医療』の視点だけでなく、生きていく営みである『生活』の視点をも持って“人”をみる」と示しています(日本看護協会, 2025)。患者さんのQOL向上のために、病院と地域の看看連携を強化していきましょう。

【引用文献】

日本看護協会, 2025. 看護の将来ビジョン 2040
～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～
P3. 公益社団法人 日本看護協会.

出典：茨城県看護協会ホームページより
<https://www.med.or.jp/dl-med/doctor/chiiki/kyodosoukai31th/04-32.pdf>



論文発表報告

■ Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery

心臓血管外科 松本 龍門

当科からの論文“Sex-Based Differences in Dissection Patterns and Surgical Strategies in Tear-Oriented Repair for Acute Type A Aortic Dissection: A Single-Center Retrospective Study”がAnnals of Thoracic and Cardiovascular Surgery誌に掲載されましたので報告いたします。急性A型大動脈解離は極めて致死率の高い疾患であり、迅速な外科治療が必要とされます。一方で、性差による臨床像や解離形態、手術戦略の違いについては十分に検討されていません。本研究では2013年から2022年までに当院で緊急手術を施行した急性A型大動脈解離148例を対象とし、男女間で患者背景、entry tearの部位、術式選択、術後成績を比較検討しました。女性患者は男性より高齢である一方、entry tearが上行大動脈に存在する割合が高く hemiarch replacementが選択される傾向が認められました。一方、男性では弓部あるいは遠位にentryを有する症例が多く、total arch replacementがより多く施行されていました。しかしながら、院内死亡率や術後合併症、長期生存率および再介入回避率には有意差を認めませんでした。本研究の結果は、entry tearの位置に基づく tear-oriented strategyが性別にかかわらず良好な成績をもたらすことを示しており、特に高齢女性症例においても適切な症例選択により低侵襲な術式で良好な治療成績が得られる可能性を示唆するものと考えられます。

■ Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress

眼科 福田 理英子

2026年2月、香港で開催された第41回Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congressにて、ePoster発表を行いました。当教室の大鹿哲郎教授が現在アジア太平洋眼科学会の理事長を務めていることもあり、筑波大学眼科からは総勢16名が参加し、それぞれ発表を行いました。学会の登録費に8万円以上要し、現地に行く前から日本の物価の安さを痛感しました。私の演題は「A Case of Juvenile Myasthenia Gravis with Positive Anti-MuSK Antibodies」で、抗MuSK抗体陽性重症筋無力症(MuSK-MG)の診断に至るまでに時間を要した3歳児の反省症例の報告です。小児及び神経眼科は私の専門分野ではありませんが、小児MuSK-MGは報告例が少なく、診断に難渋することが知られています。海外では小児MGのうち抗MuSK抗体陽性例は約2.3%とされており、既報においても診断までに苦慮した経過が示されています。本症例では眼瞼下垂を伴わず、斜視のみを主症状としていたため、確定診断に時間を要しました。この経験は、日常診療における鑑別の重要性を改めて認識する契機となりました。斜視手術後にMuSK-MGと診断された報告もあることから、小児・神経眼科領域の奥深さと難しさを強く実感しています。近年、アジアにおける眼科研究は日本国外で行われることが増えていますが、長期経過データや質の高い画像データの蓄積は日本の研究の大きな強みの一つと考えています。当院でも眼瞼領域を中心にデータを蓄積し、今後臨床に還元できる報告ができればと思っています。

健診予約

土浦協同病院からのお知らせ

2026年2月2日から
予防医療センターの予約電話番号
が変わります！



健診予約・予約変更・予約キャンセル・問い合わせ

050-1725-6511

受付時間：月-金 7:00 - 20:00

！なるべく携帯電話からおかけください
非通知設定の方は解除してからお掛けください
ショートメッセージにて受付内容の控えをお送りします

- 予約の確定には、2～3日かかる場合がございます
- 担当者からのご連絡の後、健診のご予約が確定いたします
- 電話混雑を緩和するため、ぜひAI電話をご活用下さい

AI電話の
使い方は
コチラ！



web開催 総合病院 土浦協同病院

第18回がん・地域住民セミナー

胃がんはここまで治る ～地域で支える最新治療～

■contents

挨拶	がんセンター長	稲垣 雅春
胃がんの疫学	消化器外科	海藤 章郎
早期発見で手術不要！！～胃カメラによる低侵襲治療～	消化器内科	上山 俊介
胃がんの手術～体に優しい治療 あきらめない治療～	消化器外科	海藤 章郎
胃癌、抗がん剤治療の最先端	消化器内科	上山 俊介
胃がん術後の食事	栄養部	今西 海
胃がん手術後のリハビリテーション ～病後・治療に負けないための作り方～	リハビリテーション部	大山 朋彦



2026.3.31(火)～
無料動画配信開始

お問い合わせ：土浦協同病院 (TEL) 029-830-3711 担当：庶務課

🍵 ちょっと一息

『全国厚生連栄養士協議会 全国統一献立の日』
熊本県 太平燕 (タイピーエン) (第 62 回)

管理栄養士 唯根 理子

太平燕は中国福建省の料理がルーツとされています。長崎で生まれ熊本に伝わり地元の食文化と融合して、現在の郷土料理として広まりました。見た目はちゃんぽん、麺はヘルシーな春雨を使ったスープ仕立ての料理として地元民に親しまれています。

材料 (4 人分)

春雨	100g	サラダ油	大さじ 1
豚肉 (薄切り)	100g	鶏ガラスープの素	大さじ 1
えび	8 尾	薄口醤油	小さじ 1 強
いか	100g	塩・こしょう	適量
たまご	2 個	水	1 リットル
きゃべつ	1/4 個		
人参	1/2 本		
もやし	1/2 袋	1 人分の栄養価	
しいたけ	4 枚	エネルギー	280kcal
青ねぎ	適量	たんぱく質	19g



作り方

- ① 春雨は熱湯で戻し食べやすい長さに切る。豚肉、えび、いかは食べやすい大きさに切る。
- ② きゃべつはざく切り、人参は細切り、しいたけは薄切り、ねぎは小口切り、生姜はみじん切りにする。たまごを固めに茹でて半分に切る。
- ③ 鍋にサラダ油を熱し生姜、豚肉、えび、いかの順に炒める。次に、きゃべつ、人参、しいたけ、もやしを加えて軽く炒め、塩、こしょうで下味をつける。
- ④ A の調味料の水を加え、鶏ガラスープの素を溶かし入れる。一煮立ちしたら春雨を加え数分煮込む。
- ⑤ 最後に青ねぎを加え、ごま油を少し垂らして香りをつける。味をみながら塩、こしょうで整える。器に盛り付けてゆで卵を飾る。

卒業式を終えて

土浦協同病院附属看護専門学校

厳しい寒さも和らぎ暖かな春の訪れを感じる 3 月 6 日、来賓や保護者に見守られる中 51 期生 69 名の卒業式が挙行了されました。

本校同窓会御一同様よりいただいたコサージュを胸に、卒業生たちは晴れやかな表情で式に臨みました。式では、渡辺誠一学校長より卒業証書が授与され、成績優秀者として学校長賞 3 名、皆勤賞 5 名が表彰されました。卒業生代表の西村萌さんは、臨地実習でのエピソードも交えながら、「最後の瞬間まで寄り添い続ける看護師の存在の偉大さに改めて気づき、より一層研鑽を重ね日々精進していきたい」と話しました。そして、これまでの学生生活を振り返り、関わっていただいた方々への感謝と、看護師となる決意を述べました。

4 月からは、それぞれの場所で新たな一歩を踏み出します。患者さんの目線に立ち、患者さんが、何を望んでいるのか、何が必要なのかに気づき、考え、行動できる、信頼される看護師になって欲しいと思います。卒業生の活躍を、職員一同、心から応援しています。



令和8年度 人事

昇格・昇進者

内科部長 齋藤弘明
麻酔科部長 石塚俊介
審査役看護部長 遠藤香織
審査役看護主任 箕輪明美
調査役看護主任 狩谷美沙恵
調査役看護主任 吉田美由紀
調査役看護主任 坂本恵治
調査役看護主任 玉主祥子
調査役看護主任 稲葉七瀬
調査役看護主任 奥田静
調査役看護主任 上野ゆき
副調査役看護師主幹 牧村法子
副調査役看護師主幹 小田倉宏美
副調査役看護師主幹 中泉愛
副調査役看護師主幹 関口奈緒
副調査役看護師主幹 諸田有佳
副調査役薬剤師主幹 小泉桂
副調査役放射線技師主幹 沼尻俊夫
副調査役放射線技師主幹 鈴木千絵
副調査役放射線技師主幹 大森一輝
副調査役放射線技師主幹 菅野千紘
副調査役放射線技師主幹 塩ノ谷瑞季
副調査役放射線技師主幹 関口芳恵
副調査役放射線技師主幹 飯田恵子
副調査役放射線技師主幹 若狭伸尚
副調査役放射線技師主幹 五十嵐恵子
副調査役放射線技師主幹 篠崎ひとつ
副調査役放射線技師主幹 野田沙織
副調査役放射線技師主幹 松橋佐知子
副調査役放射線技師主幹 関谷直子
副調査役放射線技師主幹 滝本将士
副調査役放射線技師主幹 上岡将之
副調査役放射線技師主幹 津島優人
副調査役放射線技師主幹 滑川康幸
副調査役放射線技師主幹 佐賀晋
副調査役放射線技師主幹 小原祐介
副調査役放射線技師主幹 唯根理子
副調査役放射線技師主幹 石田真澄
副調査役放射線技師主幹 松井恵美
副調査役放射線技師主幹 西山亜由美
副調査役放射線技師主幹 芹沢翼
副調査役放射線技師主幹 薄井まどか
副調査役放射線技師主幹 小川幸江

審査役看護師主幹 久大保純子
主事役薬剤師 長田晴子
主事役検査技師主幹 松沼亜央衣
主事役理学療法士 園部裕人
主事役理学療法士 篠塚健治
主事役理学療法士 塚田大輔
主事役理学療法士 菅沢正道

転入者

採用者 (医師)

【循環器内科】村上愛実／渡邊雄祐【呼吸器内科】浦芳樹【消化器内科】鈴木達也／山岡弘明【三好虎大朗】【腎臓内科】尾田陸【血液内科】三好虎大朗【膠原病内科】代田内分泌内科【白石織栄】結城伸啓【膠原病内科】菱沼智紀【脳神経内科】村上令【小児科・新生児科】中村虹輝【清水亮汰】浅原真由【田中ひかる】本田新【松田拓也】【消化器外科】青柳康子【齋藤稔史】芥田壮平【山田圭寛】川島由莉【黒川芽生】【脳神経外科】成瀬寅彦【安井万由】【血管外科】土屋遼介【整形外科】本間雄紀【種田由】【工藤敏文】【整形外科】【皮膚科】本間雄紀【田中瀬奈】【泌尿器科】三谷康輝【長谷川晃】【産婦人科】梅本恵理華【耳鼻咽喉・頭頸部外科】松嶋華【麻酔科】町田大二【生越知樹】【救急科】小松原彰太／澤田悠之介【放射線診断科】吉田美貴

採用者 (臨床研修医)

【2年次臨床研修医】小林祐介／安田元紀【1年次臨床研修医】宇留野友佳／榎政行／小野寺凜／川崎秀和／熊崎遼太／小林愛歌／山東真樹／須賀原翔／滝口奏／館上奈由／津田真翔／仲山舞／藤田鉄平／真中貴与史／山腰康介／丸若美結／古田貴来／竹下由唯／相原綾人／杉盛遥

採用者 (保健師・看護師)

【保健師】澤田知里【看護師】飯島真羽／飯塚海友／井坂理子／石崎愛彩／稲葉未夢／井上更紗／入江陽大／上田七海／宇良虎太郎／大草希／大久保奈南／大沼夏夕／大林月菜／大矢果歩／小沼依愛／折笠友紀／加藤未希／神谷弥沙／川崎愛奈／菊池めい／小林かりん／小林かれん／小林千夏／小林美沙希／今涼風／斎藤果歩／齋藤知歩／佐久間愛美莉／櫻井里緒／佐藤奏来／佐藤蓮／柴田優香／鈴木希和／鈴木花／高島優芽／瀧田雪羽／長瀬真愛／永滝わかな／長塚真美／西村萌／二瓶由羽／野口莉那／林大地／藤田菜奈未／古橋真緒／星名碧衣／堀川誌音／前田星／松崎冬愛／松澤遥／水柿麻穂／遊佐安優羽／清野菜那

採用者 (その他・コメディカル)

【薬剤師】五藤ゆい【診療放射線技師】市村琴美／藤枝玲【臨床検査技師】大高凛／小林愛梨／仙田菜々美／高田光子／徳光佑希乃／蛭田翼／吉田泰地【作業療法士】堤愛梨【臨床工学技士】箱崎日菜【管理栄養士】井筒日和【社会福祉士】下村彩音／鈴木萌依／多和桃花【視能訓練士】小川遥叶【救急救命士】山口修輝【ナースینگアシスタント】石川順子／武田汐梨／田代昌子／原美桜／広瀬章子

卒園式を終えて

附属保育所ひまわり
所長 渡辺 章充

附属保育所ひまわりの第17回卒園式が3月25日水曜日に行われました。園児7名が今年も巣立っていきました。子どもを保育所に預けて働く、と言うのは当たり前に行われていますが、本音を言えば一分一秒でも長く一緒にいたいのは親子共通の思いでしょう。初めての登園日には親子ともとても切ない気持ちになっていたと思います。でも、ひまわりで保育師さんに大切に可愛がられ、友達といっぱい遊んで、子ども達は立派に成長しました。

子どもの育つ力には、毎年毎年感動させられます。そして、卒園式は子ども達をお祝いするだけでなく、病院としてその親御さん達に感謝を示す場でもあります。我が子を保育所に託して、地域の基幹病院である当院の医療を守るために尽力してくれた保護者には、本当に感謝してもしきれません。保育師の人数減もあり、受け入れ時間や日数がかつてよりも制限せざるを得ない状態が続いていますが、ひまわりが職員親子に安心と幸せを感じてもらえる成長の場として、ずっともっと、あり続けたいと改めて思いました。

